

外来種の脅威に立ち向かう

～侵略的外来種への新たな対策技術に関する調査研究～



長野県環境保全研究所 自然環境部

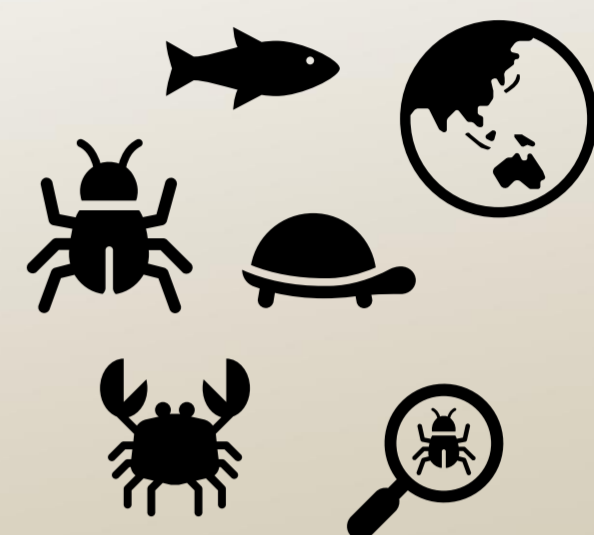
外来種による生態系、人の健康・生命、農林水産業への被害がますます増大しています。これら侵略的外来種を早期に発見し、効果的な防除を推進する手法の開発に取り組んでいます。

なぜ研究が必要なの？

<現状> 我が国の生態系被害防止外来種リストには429種が掲載され、このうち100種をこえる動植物が当県にも侵入。さらに増加する傾向にあります。

<課題> これら外来種による悪影響を防ぐため、早期に発見し効果的な対策を取ることが求められています。

<目標> 早期発見手法（環境DNA技術等）の適用可能性を探ります。また、優先度の高い外来生物への効果的な対策を検討し、普及をはかります。



分布を広げる生物たち

どうやって研究するの？

① モニタリング

国内に侵入した外来種情報を常時収集



県内への侵入定着状況を調査。既侵入種について動態モニタリング



県・市町村等と分布情報を共有、効果的な対策手法について情報提供



② 早期発見技術

環境DNA

環境水に含まれるDNA断片を分析することで、侵入生物を特定。ソウギョ、ブラックバス、外来サケ科魚類などに適用。



センサーカメラ

県内各地に仕掛けた赤外線センサーカメラで外来哺乳類の侵入を探知。



市民との連携

生物同定アプリによる情報共有。



③ 駆除方法の開発

オオハンゴンソウ

刈り払い、抜き取りなど、複数の防除手法を比較。効果的な防除法を探る



根羽村の高原に咲き乱れるオオハンゴンソウ

④ 普及啓発

山岳域への種子持ち込み調査
登山者による外来植物（種子）の持ち込み実態調査、登山口における啓発。



駆除講習会
防除方法を普及



長野県版外来種対策ハンドブック

これまでに分かったこと

- **環境DNA分析による外来種検出**：野尻湖におけるソウギョの検出が可能に。河川のサケ科魚類（ブラウン、カワマス、イワナ）についても検出。外来種モニタリングへの手法として有望。
- **アカボシゴマダラ**：県東北部の38ヶ所で生息を確認。山頂部で占有行動をとる雄に注目した定点観察が有効。県内での幼虫越冬を確認。
- **アライグマ**：県内の43市町村で生息を、うち4市町村（軽井沢町、飯田市、根羽村、南木曾町）では個体群の定着を確認。DNA分析によって関東系、東海系等の複数の侵入経路が推定された。
- **オオハンゴンソウ**：薬剤散布、刈り取りで密度を低減させることは可能だが、駆除には抜き取りが必要。抜き取りができない面積の場合は、刈り取りにより拡大防止をすることが重要。

